

ISSN 2186 – 3989

ピア・サポート×自律学習支援クラスに見る学生
の学びと成長

—2023年度の試みから学習支援のあり方を考える—

梅本 佳子、佐々木 技好

Student learning and growth seen in peer support and autonomous
learning support classes for international students
— Thinking about learning support methods based on the attempts in 2023 —

Yoshiko Umemoto, Ayako Sasaki

北 陸 大 学 紀 要
第56号(2024年3月)抜刷

ピア・サポート×自律学習支援クラスに見る学生 の学びと成長

—2023年度の試みから学習支援のあり方を考える—

梅本 佳子*、佐々木 技好*

Student learning and growth seen in peer support and autonomous
learning support classes for international students

—Thinking about learning support methods based on the attempts in 2023—

Yoshiko Umemoto*, Ayako Sasaki*

Received December 12, 2023

Accepted January 24, 2024

抄録

2023度において北陸大学留学生別科では、ピア・サポーターや友人との相互の学び合いに注目し、ピア・サポート制度を導入した。本別科においては、ピア・サポートの導入は初めての試みであり、ピア・サポーターの研修を担当している本学高等教育推進センターに相談しながら、手探りで進めていくこととなった。また、以前から課題であった学生の自習の意識づけを目標として、ピア・サポートによる学習支援と組み合わせる形で、自律学習に取り組むクラスを立ち上げた。このピア・サポートと自律学習支援の相乗効果を期待した「ピア・サポート×自律学習支援クラス」で、前期の運営を通し、ピア・サポーターと学生の双方の記録や報告、アンケートから見えてきた成果と問題点について分析した。また、その結果を踏まえ、今後の留学生別科での学習支援のあり方について検討した。

キーワード：ピア・サポート， 自律学習支援， 留学生教育

* 北陸大学留学生別科 Japanese Language Course, Hokuriku University

**責任著者 梅本佳子 Yoshiko Umemoto y-umemoto@hokuriku-u.ac.jp

はじめに¹

北陸大学留学生別科（以下、「別科」とする）では、2023年度の試みとして、①ピア・サポートの導入、②自律学習の促進、の2点に取り組み、学習支援を行った。ピア・サポート制度を取り入れることで、学生相互の助け合いが自律的な学習につながることを目標とした自律学習支援クラスを立ち上げた。本研究では、このピア・サポートと自律学習支援の相乗効果にフォーカスした「ピア・サポート×自律学習支援クラス」という試みにおいて、ピア・サポーターと学生双方の活動報告や参加記録、アンケート結果等を資料とし、その成果や問題点を検証する。前期の実践の結果を振り返り、ピア・サポートの有用性と意義について検討したうえで、今後の本別科における学習支援のあり方を考える。

なお、タイトルの「ピア・サポート×自律学習支援クラス」は長すぎるため、本文では短く「自習クラス」と呼ぶ。

1-1. ピア・サポートの定義と背景

ピア・サポートとは、学習者同士が協働し、生活上の問題や学習を支援する活動である。JASSO（2020）は「学生生活上で支援（援助）を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で気軽に相談に応じ、手助けを行う制度」と定義づけており、本研究でもその定義で理解し運用している。ピア・サポートは、1970年代にカナダから始まり、学生相互の助け合いによる問題解決を主旨として諸外国で実施されているプログラムである。日本でも徐々に高等教育機関での取り組みが広がり、2011年からJASSOの「大学等における学生支援の取組状況に関する調査」においても継続的に状況が報告され、2021年の調査では、全国1162の高等教育機関のうち518機関（44.6%）がピア・サポートを実施していると回答している。日本でピア・サポートの導入が広まっていった時期は、18歳人口の減少や経済減速を背景に、多くの高等教育機関で予算や人員等が減少していく過程にありながらも、学生の多様性への対応や支援の拡充が求められていた。そのため、限られた学内資源での効率的な学生支援が課題となり、ピア・サポートは教職員の業務負担軽減が期待される向きも見られた。しかしながら、ピア・サポートの問題点のひとつとして、プログラム運営や研修に関わる教職員の負担の重さが挙げられている²ことから、必ずしも安易な教職員の業務代替ではないことが分かってきた。ピア・サポートは学生を労働力として利用するものではなく、それに関わる学生自身の成長や学びが期待される制度として、現在多くの高等教育機関で実践が続けられている。

留学生教育の面から見ると、近年のJASSOの報告（2020,2021）では、各高等教育機関におけるピア・サポート活動の上位の取組みに、「授業外の学習支援」「留学生支援」「授業内の授業サポート」が挙げられている。文部科学省により大学のグローバル化が提唱され、外国人留学生の30万人受け入れを目標に設定した2008年の「留学生30万人計画」の発表ののち、留学生数は2019年に30万人を超えた。コロナ禍による2019年度以降の留学生数の減少はあるが、高等教育機関に在籍する留学生は2022年度に181,741人となっている³。高等教育機関で学ぶ留学生の増加に対し、留学生支援のための教職員の拡充のみではなく、学生相互の支援を組み込むことにより、より多面的な支援が可能になる。ピア・サポートはその一環として、非常に有効な可能性を持っており、留学生教育においても注目度の高い取り組みである。

1-2. 自律学習の定義と背景

自律学習は、1人で学習すること＝自習＝自律学習、と混同されることがあるが、自律学習は学習者が学習目標を意識し、学習手段、方法、環境の選択を含め主体的に学習を進めることに意義がある。『新版日本語教育事典』では、「学習者が自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価すること」と説明されている。自律学習で重視されるのは学習者の自己主導性であり、独力で学習をすることではない。友人と共に勉強することや、教員や先輩、周囲の人間の支援を受けながら勉強することも、自律学習の学習手段となりうる。

本稿では「自律学習」という用語を用いるが、第二言語教育においては「学習者オートノミー」という用語が一般的であるとの指摘がある。「学習者オートノミー」が言語教育において普及していった経緯は『学習者オートノミー—日本語教育と外国語教育の未来のために—』（青木・田中,2011）に詳しいが、ヨーロッパで生まれた概念であり、1990年代にヨーロッパ以外の国にも拡大し、教育の主流に取り入れられていったことが述べられている。『新版日本語教育事典』では、「学習者オートノミーが西欧の個人主義を背景としているため、集団主義的文化をもつアジア人学習者に適さない」という議論があることについて、アジアにも学習者オートノミーに類似した思想は存在したこと、学習者オートノミーは個人主義的独立＝孤立ではなく、学習の相互依存性を前提としていること、アジア人の中にもオートノミーを志向する学習者はいること、アジア人学習者のオートノミーに対する否定的反応は欧米人学習者にも見られることを反論として挙げている。ただ、東アジアに多い教師主導型、知識伝達型の教育を受けてきた学習者に対し、学習者オートノミーの考え方がなじみにくい面があるのも、現場での実感であろう。

1-3 本研究の意義

留学生を対象としたピア・サポートは、東北大学のヘルプ・デスクや北海道大学の留学生サポート・デスクなど、日本人及び留学生ピア・サポーターにより、生活上の問題から学習までを支援対象としたものが多く報告されている。また、日本語教育における自律学習支援に関しても、「学習者オートノミー」の用語で（青木・田中,2011）など教師の役割について多く示唆され、実践が試みられている。しかし、自律学習支援とピア・サポートを組み合わせて実施したものは少なく、例えば早稲田大学のわせだ日本語サポートなどがあるが、留学生のための日本語学習リソースと留学生サポートを、セルフ・アクセスという形で留学生が利用する留学生支援システムを構築している。これは自律的学習を重視し、留学生自身が利用の選択、決定をするもので、ピア・サポートのスタッフは留学生の主体的なセルフ・アクセスを支援している。上記に挙げた東北大学や北海道大学のサポートも、基本的には学生の主体性に拠るアクセス・フリーの支援体制である。しかし、学生自身に関心がなければ、卒業まで一度もアクセスしない学生もいるかもしれず、ピア・サポートや自律学習の概念のない教育制度の中で勉強してきた学習者には、それらにどういった意味や効果があるのかを想像しにくいことが考えられる。今回、別科では自律学習支援にピア・サポートを組み込んだ自習クラスを設置し、初回は対象クラスのほぼ全員に参加してもらった。自習クラスの中で、自分の勉強の目的や、学習方法を探し、その時間にできたことを評価してもらい、自分で学習を管理する力を育てていく試みである。ピア・サポーターは目標を定めるところから関わり、評価の記入までサポートする。まだ手探りで始めたばかりであるが、留学生日本語教育において意義ある試みであり、今回の振り返りと気づきをもとに、今後も修正と改善を続けていきたい。

2. ピア・サポート×自律学習支援クラスの立ち上げ経緯

別科において、「ピア・サポート×自律学習支援」クラスの試みを始めたのは、2022年度別科生の「別科にピア・サポートの制度はないのか？」という意見があったことが契機である。北陸大学では、2014年から薬学部でピア・サポート制度が導入されており、2017年からは経済経営学部でも SA やピア・サポートのプログラムが取り入れられ、現在は国際コミュニケーション学部、医療保健学部などにおいても実施されている。学部では、1年次から4年次までの学部生の中で、主に先輩から後輩への学習支援となっており、来日後、半年から1年で修了する留学生を主として構成される別科とは状況が異なる。そのため、学部での様子を参考にしつつ、先輩から後輩へではなく、上級クラスの学生が初級または初中級クラスの学生をサポートするなど、別科の状況に合わせた形で実施することにした。

また、学生の課外学習、授業外での予習及び復習の不足が毎年の課題となっており、自律学習の意識づけも検討されていた。本学別科では、予算と教員確保の面から、前期は細かいレベルに調整したクラスが作れず、クラス内のレベル差が大きくなる。そのため、上位者と下位者の乖離が大きい場合があり、授業内でのフォローも難しい。可能な限り補講クラスも開講しているが、補講（2023年度前期では30分×週3回）だけで学習内容を習得することは難しく、教員側は学生自身での学習内容の反芻、整理、練習を期待せざるを得ない。しかし、学生の中には授業外で予習・復習することなく、授業内のみで日本語を習得する姿勢も見られ、教員から予習・復習の呼びかけや、自宅学習時間の確認等をするうちに、自習時間の確保の問題だけでなく、目的意識や学習方法が問題となっている可能性も窺えてきた。このような状況を改善するため、まずは学校での自習時間をとり、授業外での勉強の意識づけをすることを検討した。さらに、その中で学生自身が目標や方法を選択し、結果を評価することで、各自の自律学習へとつなげていけるのではないかと考えた。自主学習に取り組むための時間と空間を確保し、上述のピア・サポート制度も取り入れ、自律学習支援を行う。友達やピア・サポーターと一緒に勉強することで、(1) 勉強するモチベーションや協働の意識を高める、(2) 一緒に勉強する友人の学習方法や、学習ツール等を共有する、(3) リラックスした雰囲気でも勉強でき、苦手意識から脱却する、といった効果を期待し、「ピア・サポート×自律学習支援」を目的とした自習クラスを開始した。

3. ピア・サポーター×自律学習支援クラスの概要

別科において、2023年4月から7月にかけて実施した自習クラスの概要について、以下にまとめる。ピア・サポート制度については、既に学部で実施されていた SA 及びピア・サポーター制度を参考に、ピア・サポーターの予算を申請し、ピア・サポーターの募集や学内研修などを経て、実施に至った。

【対象】 初級クラス（Aクラス：24人）中国（18）、ネパール（5）、スリランカ（1）、韓国（1）

中級クラス（Bクラス：19人）中国（17）、メキシコ（1）、ベトナム（1）
単位取得なし、基本的には任意の参加とする

【期間（回数）】 2023年4月から7月（ピア・サポーターなしの自習3回＋10回）

【時間】 毎週金曜日の3限（13:20～14:50）、90分

【場所】 教室⇒ 3回目から国際交流ラウンジに変更

【支援要員】 学生（ピア・サポーター）4名、教員1～2名

【目標】

1. 授業外での自習の習慣づけ、自律学習の意識の育成
2. ピア・サポーターや友達と、相互に学び合いや協働ができる環境づくり
3. 読み物や日本語能力試験の勉強など、授業の勉強以外の学習を自分で選択できる機会の提供

【クラスの流れ】

目標の記入（5分程度）⇒ 各自の目標に沿った自習（80分弱）⇒ 達成度の記入（5分程度）

【1～13回目までの内容】

自習クラスとしては全13回の実施だが、最初の3回目まではピア・サポーターが入らなかったため、「前1～3回」として区別し、ピア・サポーターが入った4回目以降を正式にカウントする。

表1 自習クラス各回の内容

前1回目	クラスの説明 現在の自分の日本語能力の評価、3か月後の目標と当日の目標の設定、終了後の自己評価 自己学習ツールの紹介 教室においてピア・サポーター不在の自習 留学生向けの読み物や、日本語能力試験対策テキストの提供（一貫して継続）
前2回目	教室においてピア・サポーター不在の自習 当日の目標の設定、終了後の自己評価（一貫して継続）
前3回目	国際交流ラウンジに場所を変更、ピア・サポーター不在の自習
1回目	ピア・サポートの開始、自習用プリントの配布（前半のみ）
2回目	課題プリントの配布（前半のみ）
3回目	課題プリントの配布（前半のみ）
4回目	課題プリントの配布（前半のみ）
5回目	終わっていない課題プリントを継続
6回目	日本語能力試験対策用教材の提供
7回目	日本語能力試験対策用教材の提供
8回目	日本語能力試験対策用教材の提供
9回目	期末試験対策の自習用プリントの配布
10回目	期末試験対策の自習用プリントの配布

※1～4回目までは、課題プリントを配り、クラスの前半はそれに取り組むよう促した。後半は自分の目標に合った勉強をするようにした。

【ピア・サポーター】

ピア・サポーターは上級クラスを対象に募集し、応募があった4名のうち、2名を有償で正式に、2名を無償でボランティアとして採用した。これは当初の予算を2名の枠で申請しており、2名にしか報酬が出せなかったため、応募者4名のうち2名に正式に依頼

することにしたが、他の2名から無償で構わないのでこの活動に参加したいという申し出があり、最終的に4名がピア・サポーターとなった。

表2 ピア・サポーターの情報

A	漢字圏（中国）	正式に登録、有償	事前に研修を受けた
B	非漢字圏（タイ）	正式に登録、有償	事前に研修を受けた
C	非漢字圏（イラン）	ボランティア、無償	事前に研修を受けた
D	漢字圏（中国）	ボランティア、無償	6回目から参加したため、事前に研修を受けていない

また、採用されたピア・サポーターに対しては高等教育推進センターから、学部 SA およびピア・サポーターへの事前研修が行われ、上記 ABC の3名が参加した。研修では、ピア・サポーターとして、同じ学生の目線からサポートすること、教員とは異なる「身近さ」「対等な関係性」に拠って相手に寄り添う形の支援であることが説明された。また、担当教員との関わりや、過度の仕事の割り振りへの注意なども呼びかけられた。研修を受けた後、実際にピア・サポーターとしてクラスに入る前にも、担当教員から自習の流れや教室での役割を確認した。活動前アンケート（資料1参照）も実施し、その中で心配なことや分からないことについても確認した。クラス内では常に教員が1名は常駐し、全体の様子を見ること、ピア・サポーターが対応できない場合のフォローに入ることを心がけた。

毎回クラス終了後には、その日の活動内容や気づきについて報告を提出してもらった。対面で直接、感じたことや意見も聞く予定だったが、次の時間に授業が入っている学生もいたため、報告書のみになった場合もあった。記入された内容によっては個別に対応し、話を聞くようにした。活動最終日にはアンケート調査を実施した。

【教師の役割】

このクラスで教員はファシリテーターとしての役割をつとめ、全体の進行管理を担った。クラスでは、開始・終了の挨拶や活動の指示をし、ピア・サポーターと学生の様子を見つつ必要なフォローに入ったり、アドバイスをしたりした。クラス終了後は、ピア・サポーターに報告書を書いてもらい、可能であれば受け取った際に当日の様子などの聞き取りをする。ピア・サポーターの報告内容を受け、クラスの流れややり方を修正する場合もあった。

【目標及び達成度記入シート】資料2参照

最初は1回ごとに1枚の紙に記入し、回収していたが、振り返りをしやすくするため、欄を縮小し1枚の紙に残りの全ての回について記入できる形にした。毎回の目標と達成度が一目で分かるようになったが、「目標の理由」の部分を省略したため、なぜその目標を設定したのかが明示されなくなった。

【ピア・サポート報告書】資料3参照

毎回のクラスで、その日の活動内容及び問題、気づきを記入し、提出してもらった。

4. クラス実施の状況と実態

【開始からピア・サポート導入まで】

自習クラスは、前期授業開始後、最初の週から実施した。最初の3回まではピア・サポーターが事前研修を受ける前だったため、ピア・サポーター不在の状態で、各自が個別に自習に取り組む形になった。学生は任意参加ではあるが、まずはこのクラスの実存についての認知が必要と考え、あえて任意参加であることを伏せて自習クラスとしてほぼ全員に参加してもらった。任意参加をはじめから伝達すると、ピア・サポーターや友人との学習体験に触れる機会もなくなる学生も出てくるため、最初はそういった機会に触れることを入り口とした。

4回目から、ピア・サポーターがクラスに入る形となり、この4回目が「ピア・サポート×自律学習支援」クラスとしては1回目となる。

【空間】

初回から2回目までは、通常の授業の教室を使用した。一人用の教室机が人数分、間隔をあけて配置されている一般的な教室である。そのため、教室での席順の通りに座って個別に自習する形態となり、協働や教え合いの余地があまり生まれなかった。3回目からは、国際交流ラウンジ（4人掛けテーブル席、6人掛けソファ席）を使用し、1つのテーブルにつき4人～6人まで座れるため、友人ごとのグループが自然に生まれ、リラックスした雰囲気から始められた。それぞれの勉強に取り組むにつつ分からないところは聞き合える環境ができた。テーブルごとの間隔が空いているため、ピア・サポーターはグループ間を移動しながら様子を見ることができた。反面、開放感があるせいかトイレや飲み物の購入などの出入りが多くなり、後半は学習目的ではないスマートフォンの使用も散見された。

【時間】

時間割を組む際、自習クラスの時間を確保するために、金曜日の3限に授業を入れないようにした。しかし、一部の選択授業がこの時間に重なり、参加できない学生が数名いた。

【自律学習支援】

自律学習は、自分の勉強したい内容を自分で決め、目標を定めて勉強することに趣旨がある。そのため、初回のクラスで目標を立てることを説明し、現在の自分にできること、できないことを考えたうえで、3か月後の目標を記入してもらった。そのうえで、当日の90分間の学習目標を記入し、学習終了後は「できたこと」「できなかったこと」として達成度を記入してもらった。当日の目標と達成度は、毎回必ず書いてもらい、ピア・サポーターにも具体的に書くよう補助をしてもらった。

【自習の流れ】

自律学習を身につけるため、基本的には学生が自身の目標に沿った学習を進めることが望ましい。初回から2回目までは、学生の目標は具体性があり、ツールも様々なものを使用していた。しかし、(1) 授業の宿題を済ませることを目標にするケースが多くなり、宿題が終わるとそれ以外の自主的な学習について広がらない傾向があった、(2) クラスの後半になると集中力が落ち、寝たり遊んだりする学生も散見された、(3) 自分が何を勉強すべきなのか、自分で学習目標を立てることが難しい学生もいた、といった問題もあり、自律学習の主旨には反するが、まずは自分が「理解できていない部分」をあぶりだすため、前半の時間は課題プリントに、後半は自分の目標に沿った自習に充てることにした。また、

ピア・サポーターと関わるきっかけを持ちやすくするため、課題プリントは、解き終わったらピア・サポーターにチェックしてもらい、間違えた箇所や分からなかったところを解説してもらう形にした。これは1-5回目まで行った。

また、日本語能力試験対策の教材提供について、ピア・サポーターから意見があり、6-8回目まで対策プリントを希望者に提供した。9-10回目は期末試験前のため、初級クラスの学生に復習用の教材を提供した。

【ピア・サポーターと学生の関わり】

ピア・サポーターに依頼したクラス内での役割は、①目標記入シートの配布や記入のサポート、②学習支援（質問への対応、声掛け、課題プリントの解答チェック、解説など）、③目標記入シートの回収、の主に3つである。

当初、非漢字圏のピア・サポーターは非漢字圏の学生に、漢字圏のピア・サポーターは漢字圏の学生に対応してもらうことを考えていたが、始まってみると非漢字圏のピア・サポーターも漢字圏のピア・サポーターも、漢字圏・非漢字圏の区別なく積極的に自分から声をかけている姿が見られた。漢字圏同士の場合は母語である中国語を使用できるが、母語が異なる場合は日本語を使い、日本語での説明がうまく伝わらない場合はそれぞれに工夫して対応していた。以下、ピア・サポーターの活動報告書から抜粋する。意味を変えないよう原文をそのまま掲載するが、文の意味に関わらない誤字脱字は修正し、個人名は仮名に変更した。

表3 ピア・サポーターの活動報告の抜粋

A 1回目	<p>【活動から学んだこと】</p> <p>ベトナム出身の人と話し合うとき、どうやって日本語で質問を解決するかは難しいと思った。でも、いろいろ話し合った後、じょじょに慣れた。</p>
B 1回目	<p>【活動から学んだこと】</p> <p>日本語だけであいてにりかいできるのはちょっときついで、えい語もちゅうごく語もひつようだと思います。</p> <p>【活動で難しかったこと、今後に向けての課題】</p> <p>さいしょに難しかったのはげんごです。でも、れいをあげてみるとだんだんあいてがりかいできるようになりました。</p>
A 2回目	<p>【活動から学んだこと】</p> <p>やはり、外国人とのコミュニケーションが必要だ。どうやって自分の日本語をわかりやすくすればいいですか！考えなければならない。</p> <p>【活動で難しかったこと、今後に向けての課題】</p> <p>ネパールの学生さんたちとのコミュニケーションが難しいと思います。英語もできないし、日本語も勉強し始めるネパール人がいるからです。（※筆者注：日本語を勉強しはじめたばかりの、の意味と思われる）</p> <p>【その他、気づいたこと、感じたこと】</p> <p>ネパール語を勉強したいです。（冗談）今度はネパール人を集めて一緒に同じテーブルに座らせたほうがいいと思う。日本語レベルはほかの人より高い人は私たちの日本語を理解したあと、ほかの人にネパール語で教えます</p>

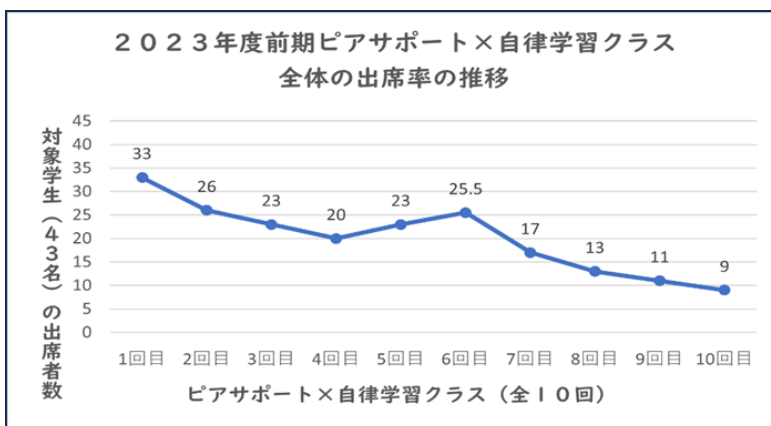
<p>B 2回目</p>	<p>【活動から学んだこと】 もし、ことばや Body language でもわからなかったら、ほんやくをつかってでもできる 【活動で難しかったこと、今後に向けての課題】 まだ、ことばのことです。</p>
<p>C 3回目</p>	<p>【その他、気づいたこと、感じたこと】 このグループ（※筆者注：ネパールの学生のグループ）の中で、私たちがおしえるより、自分たちの中でのそうだんで、自分のまちがいをなおすようです。私の話はネパールの学生たち女性の方にもっとかんたんにつうじて、そしてかのじょがほかのがくせいたちにつたえてくれると感じました。</p>
<p>B 3回目</p>	<p>【活動内容】 いろいろなことを教えました。たまたまことばでつうちできないこともあります。そのときは中国人のピアにまかせます。もちろんさいしょはじぶんでせつめいしましたが、むりしないでその人たちにかいけつできるためにおなじ母語が話せる人にまかせました。 【活動で難しかったこと、今後に向けての課題】 言語のことです。自分がわかっているのにたまたまことばでせつめいできないこともあります。</p>
<p>A 10回目</p>	<p>【その他、気づいたこと、感じたこと】 今、日本語の教え方はもう変わりました。私も新しい勉強方法を身につけなければならないです。そうして、Cさん、Bさんは絵、ジェスチャーとかを使ってわかりやすく教えています。私もそのようにしてみたいです。</p>

また、Bのピア・サポーターは5回目のクラスの口頭報告で、言葉が通じなくても翻訳アプリを使って見せるようにした、など自分で対応を工夫していることが確認できた。ピア・サポーターからの働きかけは非漢字圏・漢字圏の区別なくされていたが、中級レベル以上の文法の質問への対応は、母語の方が詳細を伝えやすいこともあり、漢字圏の母語話者同士の組み合わせが多く見られた。

【出席率の推移】

ピア・サポーターが入った時点を1回目としてカウントし、全10回の出席状況を集計する。

図 1 全体の出席率



※6回目の「23.5」は、後半に途中参加した学生を0.5として数えた

5. 振り返りアンケートの実施と結果

ピア・サポート×自律学習支援クラスの終了後、(1)参加対象である初級・中級クラスの学生への活動終了後アンケートと、(2)ピア・サポーターへの活動終了後アンケートを実施した。どちらも紙媒体で記入してもらった。

(1)【学生への振り返りアンケート】

参加対象の学生には、学期末の授業アンケートと同じタイミングで、このクラスについてのアンケートに回答してもらった。項目は以下の11項目で、全く参加しなかった学生にも理由を書いてもらった。

表 4 学生への振り返りアンケートの項目

1-1. 今回、金曜日3限の自習クラスにどのくらい参加しましたか。

1-2. その理由を書いてください。

【自習クラスに参加した人】

2. 自習クラスで、どんな勉強をしましたか。(いくつ選んでもいいです)

授業の宿題 ・ 授業でわからなかったところ ・ 能力試験の問題 ・ その他の勉強

3. わからないことがあったとき、誰に質問しましたか。(いくつ選んでもいいです)

ピア・サポーター ・ 友達 ・ 先生 ・ 誰にも質問しなかった

4. 自習クラスで、ピア・サポーターに質問をしましたか。

4-2. その理由を書いてください。

【4で「質問した」の人】

5. ピア・サポーターから、質問に答えてもらいましたか。
6. ピア・サポーターの説明は、よくわかりましたか。
7. 自習クラスで、友達に質問をしましたか。

8. 【7で「質問した」の人】友達の説明は、よくわかりましたか。
9. 友達やピア・サポーターと一緒に勉強したとき、勉強はよくわかりましたか。
10. 自習クラスで、分からなかったところが、よく理解できましたか。
11. 自習クラスで、自分の勉強の目標に近づけましたか。

項目1はクラスへの参加度と参加・不参加の理由、2-3はクラスでの学習の様子、4-6はピア・サポーターとの関わりの様子、7-8は周囲との協働の様子、9-11はこのクラスでの学習の効果に関する設問である。1-2、4-2の理由の記述以外は、5段階、あるいは4段階で評価を選択してもらった。

集計結果から、①ピア・サポーターとの関わりが学生にどのように受け止められているか、②クラスでの学習の効果を考察する。

表5 学生へのアンケート集計結果（選択項目）

	毎回	だいたい	ときどき	少し	全然
1-1. 今回、金曜日3限の自習クラスにどのくらい参加しましたか。	5	13	12	8	5
2. 自習クラスで、どんな勉強をしましたか。（いくつ選んでもいいです）	授業の宿題	授業でわからなかったところ	能力試験の問題	その他の勉強	
	26	14	24	5	
3. わからないことがあったとき、誰に質問しましたか。（いくつ選んでもいいです）	ピアサポーター	友達	先生	誰にも聞けなかった	
	26	24	14	2	
4. 自習クラスで、ピアサポーターに質問をしましたか。	よく質問した	ときどき質問した	少し質問した	全然質問しなかった	
	9	14	14	0	
5. 【4で「質問した」の人】ピアサポーターから、質問に答えてもらいましたか。	よく答えてもらった	ときどき答えてもらった	少し答えてもらった	全然答えてもらわなかった	
	27	5	2	0	
6. ピアサポーターの説明は、よくわかりましたか。	よくわかった	わかった	あまりわからなかった	全然わからなかった	
	22	10	0	0	
7. 自習クラスで、友達に質問をしましたか。	よく質問した	ときどき質問した	少し質問した	全然質問しなかった	
	10	17	6	2	
8. 【7で「質問した」の人】友達の説明は、よくわかりましたか。	よくわかった	わかった	あまりわからなかった	全然わからなかった	
	11	21	2	0	
9. 友達やピアサポーターと一緒に勉強したとき、勉強はよくわかりましたか。	よくわかった	わかった	あまりわからなかった	全然わからなかった	
	9	23	4	0	
10. 自習クラスで、分からなかったところが、よく理解できましたか。	よくできた	できた	あまりできなかった	全然できなかった	
	10	23	2	0	
11. 自習クラスで、自分の勉強の目標に近づけましたか。	とても近づけた	近づけた	あまり近づけなかった	全然近づけなかった	
	4	25	6	0	

アンケートの項目 1-1.「今回、金曜日 3 限の自習クラスにどのくらい参加しましたか」は、「毎回参加した」「だいたい参加した」「ときどき参加した」「少し参加した」「全然参加しなかった」の 5 段階の選択肢にしてあり、クラスに参加・不参加の理由も書いてもらった。選択肢ごとの理由を表にまとめた。1 つの回答に複数の理由がある場合は、理由ごとに集計した。重複する回答は 1 つにまとめ、() に数を示した。

表 6 学生へのアンケート 項目 1-2

毎回参加した (5)	学校で勉強したい／ピア・サポーターが母語で分からない問題を答える／よく勉強した
だいたい参加した (13)	友達といっしょに勉強したい／JLPT の勉強にとてもいい。参加しなかった週は用事があった／ピア・サポーターと一緒に勉強することがいい／とても意味がある 用事がある (2) / 自分で家で勉強した / 一人で勉強することが好き / 疲れたときがある
ときどき参加した (12)	宿題が多いとテストがある場合は参加したい 家で 1 人で勉強したい (4) / 他のことがしたい (3) / 用事がある (2) / 疲れた (2) / クラスの環境がうるさい、好きではない (2)
少し参加した (8)	自習はよかったが、他の用事やアルバイトで疲れたこともあった クラスの環境がうるさい、好きではない、1 人で勉強したい (5) / 他の勉強がしたい (2) / 用事がある (2) / アルバイトがある (3) / 勉強の興味が無い
全然参加しなかった (5)	(他の) 先生の授業がある (3)

アンケートの回答を見ると、参加しなかった理由については、①用事や他にしたいことがあった、②クラスの雰囲気や勉強のしかたが合わず、1 人で自習したかった、③疲れて勉強する気持ちがなかった、④勉強への関心がない、の 4 つに分けられる。参加した理由については、ピア・サポーターや友達と一緒に勉強することに肯定的なものが多い。

ピア・サポーターとの関わりを示す質問は、3、4、5、6 の項目である。項目 3 で、クラスにおいて質問した相手はピア・サポーター、友達、先生の順で多い。ピア・サポーターが積極的に声をかけていたということも理由の 1 つであろう。また、項目 4 で、ピア・サポーターへの質問の頻度は、「よく質問した」より「ときどきした」「少しした」のほうが多いが、項目 5 「ピア・サポーターから、質問に答えてもらいましたか」は「よく答えてもらった」が最も多く、項目 6 「ピア・サポーターの説明は、よくわかりましたか」も「よくわかった」という回答が最も多い。また、「あまり分からなかった」「全然分からなかった」などの否定的な回答は 0% となっている。これに対し、友人への質問の項目を見ると、項目 7 「自習クラスで、友達に質問をしましたか」は、ピア・サポーターへの質問より「よく質問した」「ときどき質問した」が上回っており、質問の頻度は高いが、項目 7 「友達の説明は、よくわかりましたか」は、「わかった」が最も多く、ピア・サポーターの説明より

「よくわかった」割合が低い。友人の説明は「あまり分からなかった」という回答も見られ、これらの結果から、ピア・サポーターが学習支援の役割を果たしていたことが分かる。

自習クラスの効果に関する項目は、9、10、11 である。項目 9「友達やピア・サポーターと一緒に勉強したとき、勉強はよくわかりましたか」、項目 10「自習クラスで、分からなかったところが、よく理解できましたか」、項目 11「自習クラスで、自分の勉強の目標に近づけましたか」は、いずれも肯定的な回答が多く、ピア・サポートや友人との協働学習環境を活用できていることが見られる。

以上から、自習クラスにおける友達やピア・サポーターとの勉強について、よい効果があったと回答した学生が多いにも関わらず、自習クラスの参加人数は減少していることが分かる。不参加の理由として、上記①～④の理由が挙げられている。

自習クラスの目標は、授業外での自律学習の習慣づけにあり、自宅や他の場所で自主的に学習ができていれば問題はない。一人でも自主性をもって学習を進められる学生にとって、自習クラスは不要であると言えるかもしれない。反面、一人で学習がなかなか進まない学生や、勉強に興味に向かなかつたり、勉強をどう進めていいかわからない学生にとって、ピア・サポート制度や友人との協働学習環境は、勉強への関心や意欲を引き出せる可能性があると考えられる。ただ、そういった学生には、セルフ・アクセスでは難しいため、まずはクラスに参加して学習環境に身を置くことが入り口になるのではないだろうか。上記の回答から、「自習＝一人で静かに勉強する」というスタイルの学生も見られるが、ピア・サポーターや友人との協働的な学習を実際に体験してみることが、新しい視点や発見につながるかもしれない。固定観念にとらわれず、まずは機会に触れることが大切であると考えられる。

(2) 【ピア・サポーターへの活動終了後アンケート】

ピア・サポーターの 4 名には、10 回目のクラス終了後にアンケートを実施し、それぞれの振り返りを回答してもらった。内容は下記の 10 項目である。

表 7 学生への振り返りアンケートの項目

選択 (5 段階)

- ①今回、ピア・サポーターとして活動したことは面白かった。
- ②ピア・サポーターとして活動することは自分にとって意義があった。
- ③ピア・サポーターとして、相手の立場に立ってアドバイスやサポートができた。
- ④ピア・サポーターとして、参加した学生に学習内容を理解させることができた。
- ⑤ピア・サポーターとして、自分の成長につながる学びがあった。
- ⑥今後機会があればピア・サポーターの活動に参加してみたい。

記述

- ⑦ピア・サポーターとして、主にどのような活動をしましたか。また、その活動により、参加した学生にどのような効果があったと思いますか。
- ⑧ピア・サポーターの活動は、あなたにとってどのような効果がありましたか。また、どのような学びがありましたか。
- ⑨ピア・サポーターの活動の中で、困ったことや難しかったことは何ですか。
- ⑩その他、ピア・サポーターの活動について感じたこと、思ったことを自由に書いてください。

①～⑥の項目は選択肢になっており、5段階で評価してもらった。全体的に肯定的な回答であり、特に「②ピア・サポーターとして活動することは自分にとって意義があった。」、「⑤ピア・サポーターとして、自分の成長につながる学びがあった。」において高い評価があった。ピア・サポーターに応募した学生は、もともと交流や支援活動に意欲的であり、チャレンジ精神や自己啓発力に富む。活動前アンケート（資料1）で事前に書いてもらった応募の理由も、自身の成長への期待や、他人の力になりたいという希望が書かれており、成長に結びつきやすい要素を持っていることが分かる。今回のピア・サポートクラスでの活動も、積極的に学生と関わり、支援がスムーズにいかない場合はよりよい関わり方を探り、交流を重ねて関係性を構築していく姿勢が見られた。⑦～⑩の自由記述回答からも、活動の効果をどのように捉えているかが分かる。

図2 ピア・サポーターへの活動修了後（振り返り）アンケート①～⑥の回答（選択）

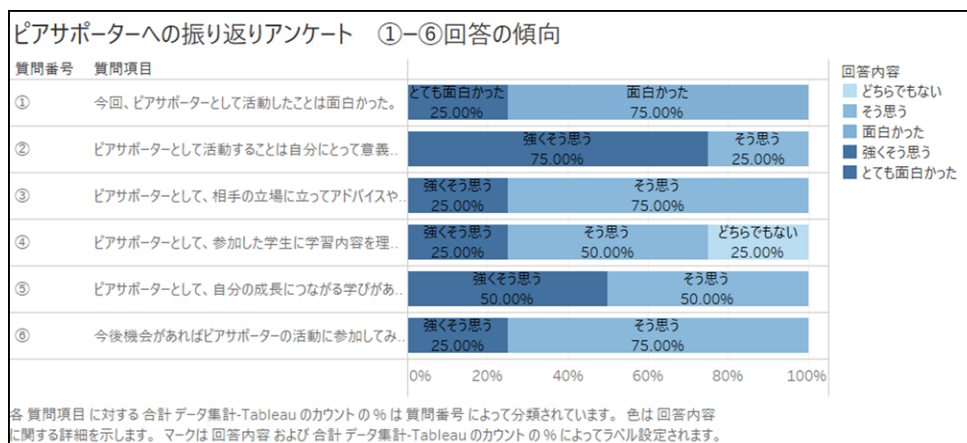


表8 ピア・サポーターへの活動修了後アンケート⑦～⑩の項目の回答（自由記述）

⑦ピア・サポーターとして、主にどのような活動をしましたか。また、その活動により、参加した学生にどのような効果があったと思いますか。

- 自分も学生たちもきっと日本語のレベルが上がってきたと思います。自分はチェックするだけではなく自分でも知らないこともありましたから、そこで！ネットでさがしてかれらにかんたんにせつめいすることもしました。
- 主にプリントの問題をれんしゅうすることと、そのこたえをチェックすることでした。そのれんしゅうによって、ぶんぼうのパターンや使い方がなんとなく、もっとつよくりかいしたかもしれないと思います。たとえば、じょしの問題について、まいかひの回数かへっていたと感じました。
- 他の学生を教えると同じに、自分も成長したと思います。そして分からなかった知識ももう一回勉強することができます。
- 私の考えでは、主に文法の説明が多いです。参加した学生は、勉強した知識の中で、ちょっと「難しい」と思っていることを復習できたと思います。

<p>⑧ピア・サポーターの活動は、あなたにとってどのような効果がありましたか。また、どのような学びがありましたか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ ⑦のようなこたえですが、ピア・サポーターのおかげでここで自分をもっとがんばらないときづきました。ここで学生たちといい思い出がありました。 ➤ 自分もまちがっていたことをなおしたり、ふくしゅうしたりするきっかけになりました。そして、かんぜんにわかっていることでも、せつめいするさい、本当はあたまの中にととのっていないと気づいて、それをととのえる（まとめる）ことができました。 ➤ 昔あいまいだった文法とか、知識がしっかり身につけるようになった。そして、この活動を通じて、他の A、B クラスの学生と知り合って、みなさんといい関係をきづくことができました。 ➤ いろいろあります。違った勉強方法も発見しました。そして、日本語の基礎知識も復習しました。

<p>⑨ピア・サポーターの活動の中で、困ったことや難しかったことは何ですか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ やっぱりは言語のことです。じぶんは日本語、タイ語、えいごしかはなせないの、これいじょうの言語はちょっと困りました。 ➤ A クラスの学生たちとときどきことばがつうじていませんでした。そして、だいたい A クラスの学生たちがもくひょうのかみを書くには少しまよっていたようでした。 ➤ 基礎的な知識がしっかりしていない学生に説明することはむずかしいと思います。 ➤ ネパールの学生たちと交流すること。でも、今はもう克服しました！

<p>⑩その他、ピア・サポーターの活動について感じたこと、思ったことを自由に書いてください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ➤ なんか、もっとピア・サポーターの方が多ければ、よかったなってさいしょは思ったことがありますが、でも数人かんけいなくおしえたいっていうきもちのほうがたいせつだと気づきました。 ➤ 学生たちの聞くと話すレベルも一緒に高めたいと思います。 ➤ その前先生に言ったように、同じクラスだけどレベルがかなり違う場合もあります。でも、来学期はもっと細かくクラスを分けると先生は言ってくれました。「よかった！」と思います。

自由記述の項目において、⑦ではピア・サポーターとしての自分の支援が、相手にどのような効果があったか、⑧では自分自身にとってどのような効果（成長）があったかを書いてもらったが、⑦の回答では、2名が「自分も学生たちもレベルがあがった」「他の学生を教えると同じに、自分も成長した」といった表現で、相手と自分の双方の成長に触れている。回答したピア・サポーターは、相手の成長と自己の成長が共になされていることを述べており、相手への支援が自分自身の成長に還元されることを実感している。⑧の解答に見られる活動の成果としては、自分自身の日本語の知識の整理ができたこと、学生とのよい関係が築けたことの2点が挙げられる。また、⑧⑨の回答から、言葉が通じないこと、自分が習得したと思っていた文法などの知識が、相手に説明するときに整理されていなかったことの2点が、学習支援上で困難であったことが分かる。特に言語の問題については、最初の頃の報告によく見られ、途中からは取り立てて書くことはなくなっていたが、最後

の振り返りから、全体を通してそこがピア・サポーターにとって大きな問題だったことが窺える。

6. 意義、結果

自習クラスで、友達やピア・サポーターと一緒に勉強することで、(1) 勉強するモチベーションや協働の意識を高める、(2) 一緒に勉強する友人の学習方法や、学習ツール等を共有する、(3) リラックスした雰囲気でき勉強でき、苦手意識から脱却する、といった効果を期待したことを 2 章に述べた。学生への振り返りアンケートで見られるように、「一人で静かに勉強したい」学生にとっては、自習クラス的环境はあまり効果は発揮できなかった。しかし、友人やピア・サポーターと一緒に勉強することが、理解につながった学生も一定数見られ、特にピア・サポーターとお互いにより関係を築き、学習の効果を感じられた学生にとっては、このクラスは意味があったと思われる。

ピア・サポートの導入に関しては、沖 (2015) が長所として①「支援される側の学生の成長」②「支援する側の学生の成長」③「教職員の喜びと業務の改善」の三つを挙げているが、本研究においても①はある程度、②は顕著な成果が見られた。③については、今年度初めての導入であり、時間的拘束や準備等の業務負担は多く、改善にはつながらなかった。しかし、学生の成長が教員にとって嬉しい成果であることは間違いない。

また、3 章のクラスの概要において、【目標】の項目で掲げた 3 点、(1) 授業外での自習の習慣づけ、自律学習の意識の育成、(2) ピア・サポーターや友達と、相互に学び合いや協働ができる環境づくり、(3) 読み物や日本語能力試験の勉強など、授業の勉強以外の学習を自分で選択できる機会の提供のうち、(1) 自習の習慣づけと自律学習の意識の育成については、目に見える形での成果が得られなかった。最後の振り返りアンケートで、目標に近づけたという回答もあったが、それが自律学習の成果とは言えず、クラスでの目標記入や達成度の記入が、学生の学習スタイルに影響や効果を及ぼしたとすることもできない。確実なこととしては、参加した学生は「目標をたてて、その時間勉強をし、最後に達成できたかどうか評価する」という、目標を定めた勉強を週 1 回行っていた。それが目標と達成度を意識して、自分自身で自律学習を行うことにつながっていくように、今後取り組んでいく必要がある。教師主導型の教育に慣れ、課題として与えられたものや指示されたものを勉強するスタイルの学生に、自分で目標を決め、自分自身の学習を評価することは、すぐにはなじまないこともある。すぐに効果を出す工夫は難しいが、根気よく学生に関わっていくことが必要である。

学生へのアンケートにおいて、自習クラスの学習の効果に肯定的な回答が多かったにも関わらず、参加者が減少したことを 5 章に述べた。アンケートの回答からは、自習クラスの時間を他のことに使いたい、勉強したくないと感じている学生もいたことが分かる。自習クラスを完全に自由参加にする場合、どうしても「勉強に興味・意欲がない」学生を取り込むことができなくなる。しかし、このクラスを立ち上げた経緯からしても、教員側が参加してほしいのは、むしろそういった学生達である。自律学習は、完全に本人任せの学習ではなく、やる気のない学生を放置するものでもない。学習者オートノミーはやる気のない学習者には期待できないという意見に対し、青木、中田は「学習者は意味のある選択の機会を与えられることでやる気を出すのである。やる気があるから選択をするのではない。学習者にとって意味のある選択の機会を提供するには、教師は、選択の幅と質を整え、学習者を選択できる状況に導いていかなくてはならない」と述べている。(青木・中田,2011) 上記を踏まえて、自律学習へ至るまでの道程をどう整えるかを検討したい。まずは、成績等により参加を義務化づけるなど、自律学習に触れる入り口を設けることも有効であろう。

自律学習支援は自主的な学習ができるように導くことが目的であり、自主的に学習に取り組む意欲を見出すためには、学生が自分自身の勉強の目的や意義について考えることが必要である。学習の意味に向き合う時間と環境を、1週間のスケジュールの中に織り込んでいくことも、自律学習の意識づけにつながるのではないだろうか。今回の自習クラスは、まだその最初の段階であり、自律学習を意識づけるための工夫を更に考案していきたい。

おわりに

「ピア・サポート×自律学習支援」クラスの成果に関して、6章に述べた通り、ピア・サポートについては、ピア・サポーターの成長という面と、学生のピア・サポーターとの関わりの様子から、取り組みに意義があったと言える。ただし、自律学習支援としての効果が得られたとは言えず、機会、方法の提供や目標・評価といった導入だけでは自主的な学習を育てることは難しいと感じた。学生へのアンケートの回答において、自習クラスに参加しなかった理由に「1人で勉強するほうが好き」「自習クラスはうるさい」という意見が一定数見られ、「静かな環境で一人で勉強する」ことが望ましいという考えも見られた。一人で静かに学習するスタイルで、自分自身の学習ができている学生にとっては、今回の自習クラスは参加するのを感じなかったかもしれない。しかし、スマートフォンが常にそばにあり、様々な娯楽にアクセスできる現代において、自由時間に勉強する意志を持つのが難しい場合もある。集中して勉強に取り組むことができる時間と空間を確保し、学生を励まし、支え、寄り添ってくれる仲間がいる学習環境を準備することは、教育機関にできる有効な学習支援である。学習への意識を促し、最終的に学生が自分で自分の学習を考えていけるよう、知識技術の教授に留まらない支援が必要であろう。今回の「ピア・サポート×自律学習支援クラス」は本学別科において初めての試みである。本研究で明らかになった結果を踏まえて工夫と改善を行い、学習支援をよりよい形で継続していきたい。

注

¹ 本稿は日本国際情報学会 2023 年度大会（2023 年 12 月 10 日、オンライン）での口頭発表「北陸大学留学生別科におけるピア・サポート×自律学習支援の試み」をもとに、加筆・修正したものである。

² 沖裕貴『「学生スタッフ」の育成と課題—新たな学生参画のカテゴリーを目指して』、名古屋高等教育研究 15 号、5-22（2015）

³ 日本学生支援機構 2022（令和 4）年度外国人留学生在籍状況調査結果による（2023.5）
<https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/zaiseki/data/2022.html>
（最終アクセス 2023.12.01）

参考文献

青木麻衣子、高橋彩「留学生サポート・デスク 一年の軌跡」、『北海道大学留学生センター 紀要 13』、118-134（2009）

青木直子・中田賀之『学習者オートノミー —日本語教育と外国語教育の未来のために—』、ひつじ書房、（2011）

安部（小貫）有紀子「課外活動・学生表彰、ピア・サポート、ボランティア活動」、『大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和元年度（2019 年度））』結果報告、日本学生支援機構、131-139（2020）

- 安部（小貫）有紀子「課外活動・学生表彰、ピア・サポート、ボランティア活動」,『大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和3年度（2021年度））』結果報告,日本学生支援機構,139-148（2023）
- 小貫有紀子「ピア・サポートの現状と課題—ピア・サポートの拡大と多様化—」『学生支援の現代的展開—平成22年度学生支援取組状況調査より—』,日本学生支援機構,63-78（2011）
- 小貫有紀子「課外活動・学生表彰、ピア・サポート、ボランティア活動—正課外における学生活動をどのように支援するか—」『学生支援の最新動向と今後の展望—大学等における学生支援の取組状況に関する調査（平成25年度）より—』,日本学生支援機構,61-75（2014）
- 沖裕貴「学生参画と教職協働が大学を変える」『大学時報』325,日本私立大学連盟,122-123（2009）
- 沖裕貴「『学生スタッフ』の育成と課題—新たな学生参画のカテゴリーを目指して」,名古屋高等教育研究15号,5-22（2015）
- 黒田史彦「留学生支援システムの構図」『早稲田日本語教育実践研究』刊行記念号,7-23（2012）
- 渡部 留美, 新見 有紀子, 末松 和子, 渡邊 由美子「ピアサポートによる留学生支援—東北大学留学生ヘルプデスクの試み—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要7』, 345-355（2021）
- 『新版日本語教育事典』日本語教育学会編,大修館書店,773-775（2005）

資料1【ピア・サポーターへの活動前アンケート】

2023年 月 日

意向確認フォーム

留学生別科

氏名：

研究目的での「ピアサポート活動報告書」、事前事後のアンケートの記載事項の使用について、

承諾する

承諾しない

【事前アンケート】

1. 今回、ピアサポートに応募した理由を教えてください。
2. ピアサポートとして、してみたい活動やアイデアなどがありますか。
3. ピアサポートについて、心配なことや分からないことがありますか。

資料 2【目標及び達成度記入シート】

がくしゅう もくひょう
学習の目標

クラス _____ 名前 _____

	もくひょう 目標 さいしよ 最初（13：20）に書きます	たっせいど 達成度 さいご 最後（14：40）に書きます
6/2	もくひょう 今日の目標：	できたこと： できなかったこと：
6/9	もくひょう 今日の目標：	できたこと： できなかったこと：
6/16	もくひょう 今日の目標：	できたこと： できなかったこと：
6/23	もくひょう 今日の目標：	できたこと： できなかったこと：

資料3【ピア・サポート報告書】

※高等教育推進センターの「ALA（アクティブ・ラーニング・アドバイザー）活動振り返りシート」が原本であり、別科に合わせて微少な変更をした。

今日のピアサポートの報告

氏 名：

活動日 2023年 月 日	
活動内容（具体的に何をしたか）	
活動から学んだこと	活動で難しかったこと、 今後に向けての課題
その他、気づいたこと、感じたこと	